HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	連環画『李双双』を１．３倍楽しむために
Author(s)	稲次, 美穂
Citation	連環画研究, 1, 4-23
Issue Date	2012-03-10
DOI	https://doi.org/10.14943/2115.98375
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98375
Type	departmental bulletin paper
File Information	renkanga_1_4-23.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

『連環画研究』第１号　2012 年３月

連環画『李双双（リー シュアンシュアン）』を１．３倍楽しむために

稲次 美穂

1960 年代前半、中国じゅうを魅了した一人の女性がおりました。彼女の名は李双双（リー シュアンシュアン）。

変わりゆく中国の中で、公社の一員として、妻として、母として、新しい女性として力強く生きる彼女は、多くの人から共感を得ることとなりました。とある村の小さな風波から始まった彼女の物語は、やがて銀幕の中へ、舞台の上へと広まっていき、中国全土に“李双双フィーバー”を巻き起こしたのでした。

さて、様々な形で描かれた彼女の物語ですが、今回はひとつ、連環画の李双双物語を覗いてみたいと思います。

★連環画の外の李双双

李双双の物語が生まれたのは 1960 年のこと。『人民文学』1960 年第 3 期に、短編小説『李双双小伝』が掲載されました。

双双は、解放前の中国の貧農の家に生まれ、十七の歳に孫荘の喜旺（シー ワン）のもとへ嫁がされてきたのでした。解放後に村の学校へ通い、学を身につけ、公社の一員としての自覚を得た双双でしたが、それでも依然として家の中で家事と育児に追われるばかりでした。けれども双双は負けじと村の婦人仲間と相談しあって、とうとう村には公共食堂が建つこととなりました。これによって婦人たちにも労働参加の機会が生まれ、双双は勤勉に生産の効率化をすすめ、大躍進の歩を進めるのでした。

以上が『李双双小伝』のあらすじです。

書いたのは李準という人で、李準は取材のために訪れた河南省の村で新しい農村女性の生き方に強く心を打たれ、当時の公社の婦人隊長だった劉鳳仙という女性を主なモデルとしながら、李双双の物語を作っていったようです。



【図 1】
『人民文学』掲載、『李双双小伝』挿絵

この小説『李双双小伝』が映画監督の魯韌（ろじん）の目にとまり、魯韌はすぐに李準へ映画用の脚本を書くように頼みました。李準はそれを快く引き受け、作者自身の手で改編された映画『李双双』が、上海の海燕電影製片廠によって撮影されることになりました。

なおこの時、物語はいくつか大幅な改編がなされています。その一つは公共食堂という舞台設定を廃したこと、もう一つは物語の中心を双双一人に置くのではなく、双双と喜旺の対立に置いたことです。『李双双小伝』で初めに語られる、双双と喜旺の結婚のいきさつなども削除されました。

舞台設定の変更は、当時の中国の情勢を直接的に反映したものです。李準が『李双双小伝』に向けての取材を行っていた 1958 年ごろには、人民の財産を共有する、共産主義の理念に則ったものであるとして、また女性を家事から解放するものとして、大いに推奨され急速に広まっていった公共食堂でしたが、間もなく食糧不足によってその運営は破綻してしまいました。61 年にとうとう毛沢東が公共食堂の存続を農民にゆだねた結果、公共食堂は各地から姿を消すこととなったのです。

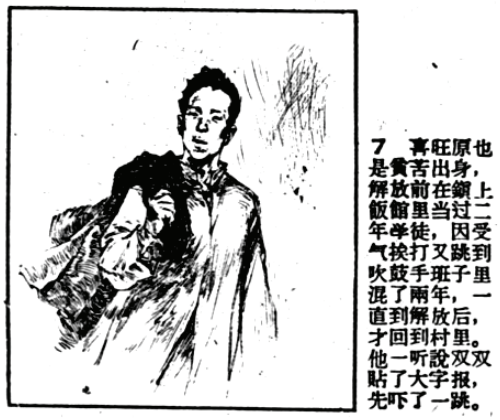
双双と喜旺を中心とした物語に改編されたのは、双双をはじめとする登場人物たちの性格や役割を、より明確にしようという意図があったのだと、李準自身が述べています。これはうまく功を奏したようで、映画での双双と喜旺の喧嘩と仲直り、押したり引いたりのやりとりは、よく観客の心をつかみ、二人転のようだと評されることもあったようです。

1962 年に完成した映画『李双双』は大変な反響を呼びました。63 年の第二回電影百花賞では、最佳故事片賞、最佳編劇賞、最佳女演員賞、最佳配角賞の四部門を制覇し、全国各地で上映され、人々は競って「李双双」に学ぼうとしました。

そして映画『李双双』以降、63 年には河南省の劇団が豫劇『李双双』を上演し、64 年には江西省の京劇団が京劇『李双双』を上演し、郭蘭英が「李双双小唱」を歌い、さらには雨後のタケノコのように次々と連環画が描かれました。



【図 2】　華三川画『李双双小伝』より、双双



【図 3】　華三川画『李双双小伝』より、喜旺

★連環画『李双双』

『李双双』の連環画には複数の版本が存在します。その中で一番古いものは、1960年の『連環画報』11 - 12 期に掲載された『李双双小伝』です。これは小説版『李双双小伝』を元に描かれたもので、白宇改編、華三川絵となっています。その他のものは1963 年と 64 年に集中しており、出版目録などをめくってみると、実に 10 種類にも及ぶ連環画『李双双』を確認することができます。【表 1】

【表 1】 連環画『李双双』一覧　なお、この表は全ての版本を網羅したものではない

発行年	改編	絵画	出版社
1960 年	白宇	華三川	人民美術出版社
1963 年	孫青	（電影連環画册）	中国電影出版社
	朱先立	王宇文	河北人民美術出版社
	陳杜之	杜滋齢	天津美術出版社
	張耀・王雷	王純信・于志学	黒竜江美術出版社
1964 年	陸仲堅	賀友直	上海人民美術出版社
	丁魯	朱然・趙越	吉林人民出版社
	張炎・竹馬	梅崇源	江蘇人民出版社
	黎炳	楊歩昇	寧夏回族自治区人民出版社
	劉躍中	呉懋祥	河南人民出版社



【図 4】　杜滋齢画『李双双』

同時期に多くの版本が出された連環画には、他にも『奪印』や『槐樹荘』といった作品がありますが、だいたいが 5、6 種ほどのようですので、『李双双』の 10 種もの版本というのは、なかなか多い方だと言えるのではないでしょうか。もっとも、1966 年にはなんと 18 種もの版本が存在する『毛主席的好学生 - 焦裕禄』なんていう連環画もあったようですが……。

これらの版本は是非全てを手元に置いて読み比べてみたいものですが、残念ながら筆者には今のところ、その願いは叶っておりません。そこで今回はひとまず 1977 年に上海人民出版社から出版されたものを手に取り、その絵画描写を中心に見ていきたいと思います。1977 年の上海人民出版社版は、1964 年に上海人民美術出版社より出版されたものの新版となります。

★『李双双』の絵画表現・賀友直の場合

77 年版、つまり 64 年の上海人民美術出版社版『李双双』は、陸仲堅と賀友直によって描かれました。

改編を担当した陸仲堅については詳しいことは分からないのですが、この連環画で絵画を担当した賀友直については、簡単に紹介しておきたいと思います。

賀友直は 1922 年生まれ、浙江省鎮海県の人です。1949 年から連環画を描き始め、1952 年に上海連環画工作学習班に参加、新美術出版社（のち上海人民美術出版社）にて、連環画の専門画家として数多くの作品を残しています。中でも 1960 年から 65 年にかけて描かれた『山郷巨変』（全四巻）は、連環画史において金字塔的な作品の一つと讃えられ、氏の一番の代表作となっております。他にも『連昇三級』（1957 年）、『十五貫』（1979 年）、『朝陽溝』（1979 年）など多くの作品を描き、“連環画大師”として現在に至るまで高い評価を受けています。

また賀友直は連環画以外に、小説の挿絵や風俗画などでも多くの作品を残しています。近年は 1920 年代ごろの上海を描いた作品を多く発表しており、そのいくつかは上海の地下鉄 10 号線の豫園駅の壁画にもなりました。

本作『李双双』は、ちょうど『山郷巨変』の三巻と四巻の間に描かれました。発表当時はどことなく『山郷巨変』の影に隠れていたような印象のある『李双双』ですが、現在では前述のものと合わせ、しばしば賀友直の代表作として名前の挙がる作品であります。その表現法などを見ても、『李双双』もまた、『山郷巨変』で確立した初期の賀友直の特徴がよく現れた作品となっています。



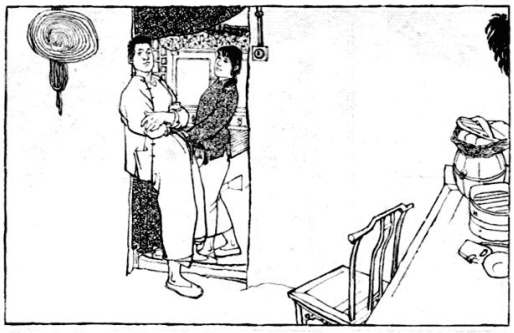
（８）她说着，眼睛一瞪，抱起那捆桶板，“登登登”就朝木工组那边走了。

【図 5】



（28）双双一拍大腿道：“前天老支书不是说让大伙鸣放吗？咱们把这意见提出来，写大字报！”彦方嫂和桂英听说写大字报，一个说不会写字，一个说怕爹吵，都犹豫起来。

【図 6】



（92）喜旺一脸正经说：“谁跟你开玩笑，把我的行李收拾一下。”双双吃了一惊：“怎么！你要出门去？”喜旺两眼望着屋顶：“嗯，搞运输去。这个家我算不能再呆下去了。”

【図 7】

例えば陰影を用いない線描の手法や、風景を見渡すロングのカット、あるいはコマの中の「密」と「疎」の対比などがそうです。【図 7】に見えるような、窓や戸を使ってコマの中をさらにいくつかの場に分けるというのも、賀友直が好んで使う表現です。

また、賀友直の『李双双』に非常に特徴的な表現として、子供の描き込みがありますが、これについては後述します。

連環画『李双双』は映画『李双双』を受けて描かれた作品ですので、基本的に映画に基づいて描かれているようです。物語も、映画から連環画になる過程でいくつか削除されたエピソードはあるものの、ほぼ映画のままに展開し、絵の方にも映画を参照していると思われる箇所が散見できます。たとえば、人物の顔や髪形、服装などは、映画の役者に似せている部分も多いようです。



【図 8】李双双（張瑞芳）

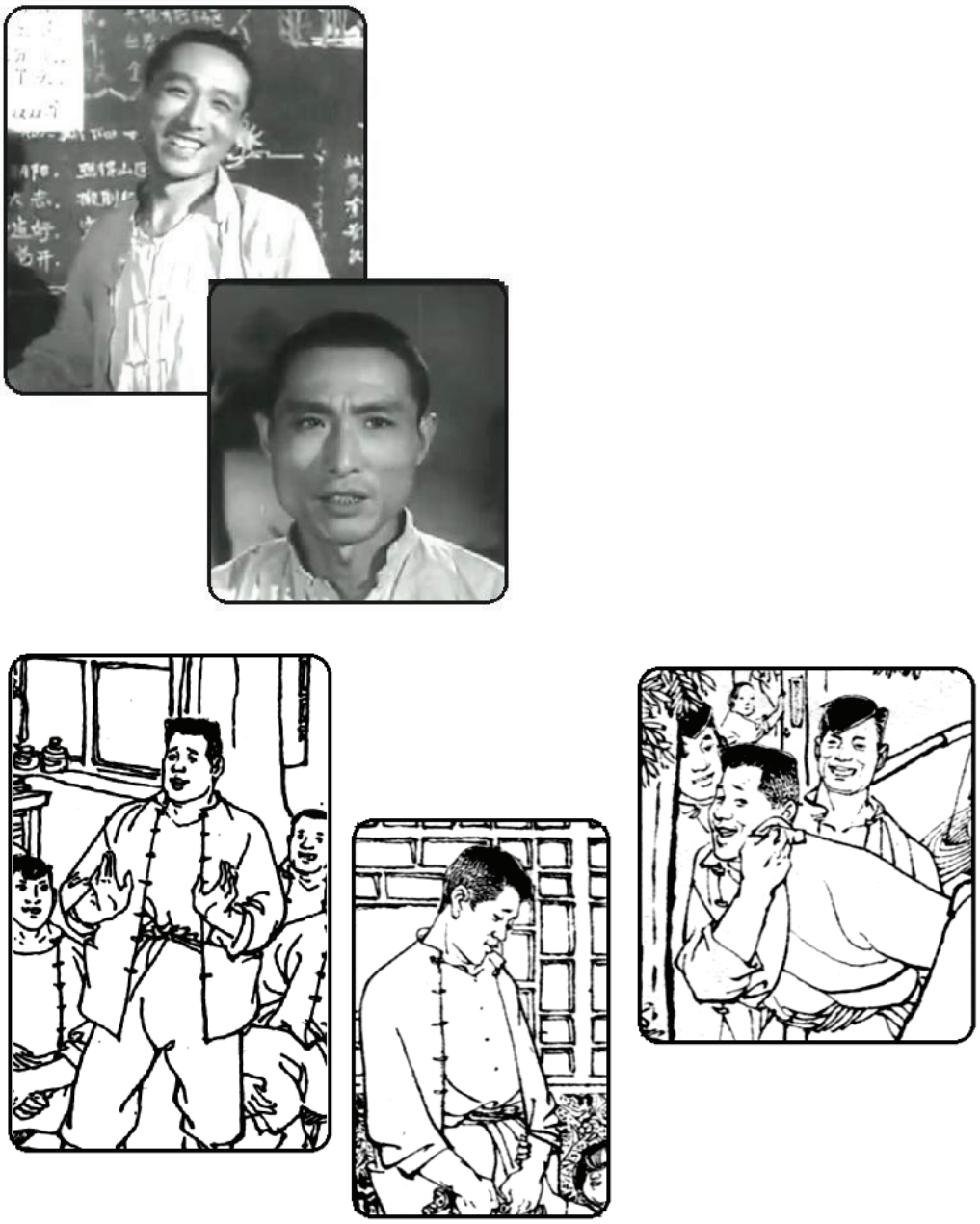


【図 9】二春（李康爾）と桂英（張文蓉）

とはいえ、もちろん連環画は映画の丸写しではありません。一枚一枚の絵を描く際には、それぞれの画家によって、また違った演出が入るものなのです。

それでは映画とは異なる描写にはどのようなものがあるでしょうか。

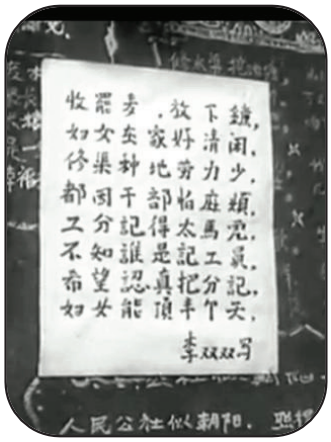
第一におやと思うのが、喜旺の顔です。映画の喜旺に比べると、連環画の方はいささか輪郭が細長くなり、眉は八の字に下がりっぱなしです。少し情けなさを加味されているのでしょうか。



【図 10】喜旺（仲星火）

物語序盤で双双が掲示板に貼り出す大字報の文句も少し異なるようです。

映画では



【図 11】

收罷麦，放下鐮， 麦を刈り終え、鎌を置き、
婦女在家好清閑， 女はおうちでひまつぶし
修渠種地労力少， 溝掘り種まき人手も足りぬに
都因幹部怕麻煩， 幹部が面倒いやがるばかりに
工分記得太馬虎， 点数記録もいいかげん、
不知誰是記工員， 誰が記録係なのやら、
希望認真把分記， きちんとつけてくれたなら
婦女能頂半個天。 女も支えよ、天の半分。

とあるのが、連環画では



【図 12】

麦收罷，放下鐮， 麦を刈り終え、鎌を置き、
又修水利又種田。 今度は溝掘り種まきだ。
地里労力不够用， 里では人手が足りぬのに、
家里婦女真清閑。 おうちで女はひまつぶし。
為啥出勤労力少？ どうして人手が少ないの？
都因幹部怕麻煩， 幹部が面倒いやがって、
工分記得很馬虎。 点数記録もいいかげん。
不知誰是記工員？ 誰が記録係なのやら？
希望認真把分記， 早く点数つけとくれ、
婦女能頂半個天。 女も支えよ、天の半分。

となっています。

どういった事情によって、このような違いが生まれたのかは、今のところ分かっておりません。あるいは賀友直のもの以前に描かれた連環画『李双双』で改編されていたのか、あるいは賀友直の語感が反映されたのか。はたまた陸仲堅による改編か。これは今後引き続き追ってみたいところです。

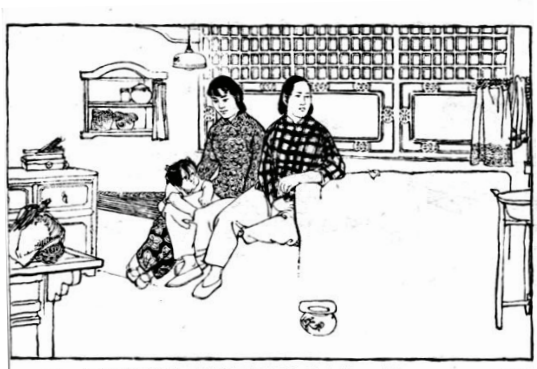
ちなみに小説版とも違い、参考までに小説で出てきた大字報の文句を挙げると、

家務事， 家の仕事は
真心焦， ほんとにじれる。
有干劲， 力があっても、
鼓不了！ ふるえない！
整天囲着鍋台転， 日がな一日かまどを囲んで

躍進計画咋実現？　　躍進計画どうして叶う？
只要能把食堂辦,　　ただ食堂ができたなら
敢和他们男人来挑戦。　あいつら男と競い合ってもやろうのに。

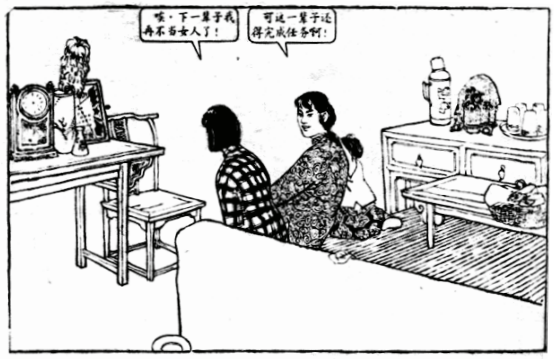
となります。この違いは小説から映画になる際に大幅な話の改編、舞台設定の変更がなされているためでしょう。

今度は少し視点を変えてみましょう。
【図 13】から【図 16】をご覧ください。



(121) 大凤虎起脸，盯着双双劈头便问："你来有什么事？把我男人赶走了还不甘心？"双双摇摇头，柔声说："不，我来看看你。告诉你，我家小菊她爸也走了！"

【図 13】



(122) 大凤听这么说，脸色马上变得和和平平，叹口气说："唉，你何苦逼得那么凶呢？男人都是这样，不依他，把家一丢，提起腿子就走！"

【図 14】



(123) 双双立刻将话头转到正题："大凤，别怕！咱们妇女也长着两只手啊！它能长粮食，它能长棉花，自己劳动得来的，吃着气儿顺，穿着也光荣，你说是不是？"

【図 15】



(124) 大凤连连点头，不由掏出心里话来，说自己不是不想下地，就是有些农活不会。双双见她明白过来了，忙不迭给她撑腰。两人又说又笑，直谈到深夜才散。

【図 16】

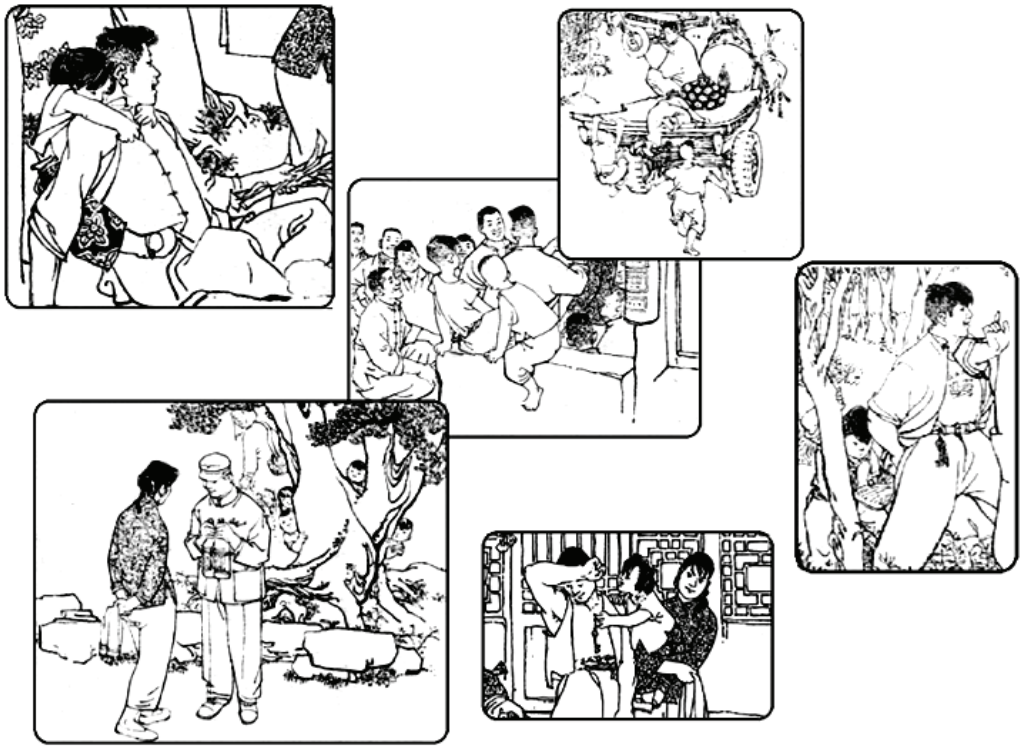
これは双双が仲たがいをしていた大鳳の家を訪れ、彼女と打ち解けようとする場面です。この場面で子供の小菊に目を向けてみてください。ぴったりと母親のそばについている小菊が、初めのうちはじっと大人二人を覗きこんでいるのですが、コマが進むにつれてだんだんと体勢を崩し、最後には母親の膝の上でぐっすりと眠りに落ちている様子がうかがえます。

ここでの小菊の役割については、作者自身が「静」と「時間」を表現するものだと解説をしています。本来ならば元気に動き回るはずの子供がじっと静かにしている様子を描くことで、室内の静けさをより強調して表すことができるというわけです。また、大人たちが次第に打ち解けていく時間の経過の中で、穏やかな大人の話し声が、小菊に眠気を催させてしまうというわけです。

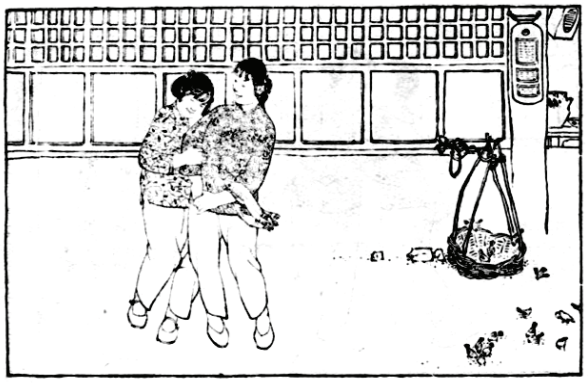
あるいはそうやって眠った小菊を自然に膝の上へ抱えてやる双双の、母親としての一面も描き出されているとのことです。

この場面以外にも、連環画『李双双』では何かと子供が画面の中に写りこんでいます。この子供たちは別段物語の中に深く関わってくるわけではないのですが、活き活きと自由に動き回る彼らの姿が、『李双双』の風景に明るさや彩りを添える「役者」であるのは疑いのないことでしょう。

また、連環画『李双双』の小菊は常に双双か喜旺にべったりなのですが、映画の小菊と比べてみると面白いかもしれません。

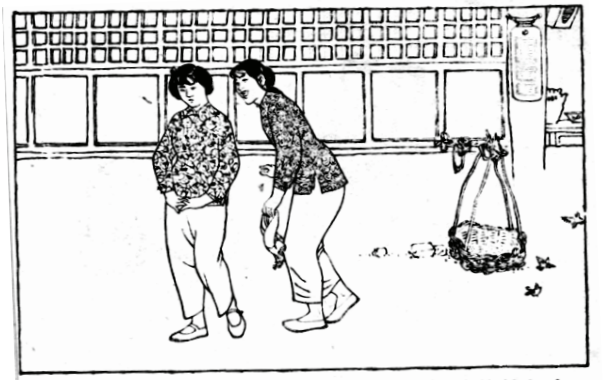


【図 17】



(126) 双双忙问："什么事呀？慌成这个样子？"桂英说，她妈妈托金樵在城里给她找了个对象，今天就要来相亲了。双双问她怎么办？桂英脸一红："我……还早哩。"

【図 18】



(127) "死丫头，你这是真心话？"双双说着，格格笑起来。桂英急了："是真心话，好嫂子！人家急得心都快跳出来，你还笑哩……"

【図 19】



(128) 双双止住了笑道："真的？那人什么时候来？"桂英道："就现在！"双双思索一下，又问过那人的姓名，自言自语说："看来这事又非得我上阵不行！"

【図 20】

風景を彩るのは子供たちばかりではありません。

今度は【図 18】から【図 20】をご覧ください。

これは、双双と仲の良い少女の桂英が、親に勝手に結婚相手をきめられたと言って双双に相談に来た場面です。ここでは画面右の雀の動きに注目してみます。

【図 18】では双双たちに構うことなく気ままにえさをついばんでいる雀が、双双が笑い声を上げるとともに一斉に飛び立ち、最後には一羽もいなくなります。

ここでの雀は、「場の静けさ」と「双双のすがすがしい性格」を表現していると、やはり作者自身が解説を加えています。

中国の絵において動物が描きこまれる場合、その動物は富貴や長寿などの暗喩となることが多いですが、賀友直の描く絵においては少し意味合いが異なります。賀友直の場合は、動物は「場の雰囲気」や「登場人物の心理的な動き」を伝えるための、立派な「役者」なのです。

画面に描きこまれる全てのもので物語を表現するというのは、連環画の理想とするところですが、賀友直はその最も優れた描き手の一人でした。

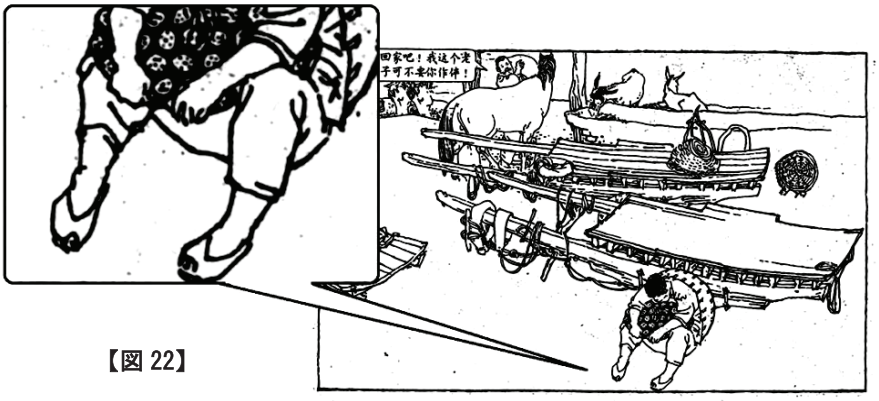
また少し視点を変えてみましょう。

【図 21】は、物語終盤、双双と喧嘩して何ヶ月も家を出て行っていた喜旺が、家に帰り、とうとう自分の今までの行いを反省する場面です。ここで双双は作っておいた新しい靴を喜旺に贈り、喜旺は嬉しそうにそれを受け取ります。この靴が仲直りの象徴になっており、これは映画には登場しない、連環画ならではの演出のようです。



(166) 夜里，小菊安静地睡下了。双双拿出一双新做好的布鞋，递给喜旺："穿上，看大小是不是合适。"喜旺穿在脚上，看看新鞋，又看看双双，憨厚地笑起来。

【図 21】



【図 22】

(137) 大车一转弯，进了车院。老耿伯帮他们卸完车，孙有、金樵都要紧回家去了。喜旺抱着被子，犹豫一下，最后象下了决心似的，就地坐下来。



【図 23】

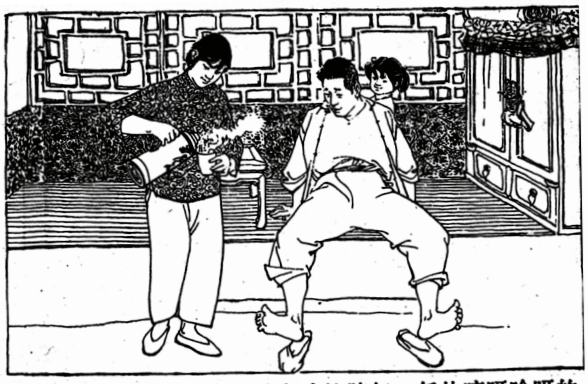
(161) 牲口腾着蹄子奔进车院。卸完车，喜旺不等老耿伯催促，挟起被子，迈开大步就往家走。

この喜旺の靴ですが、少しコマを遡ってみると、つま先が破れ、随分とぼろぼろになっているのが見て取れます。【図 22】【図 23】いつから破れてしまったのかというと、ずばり、双双と喧嘩して家を出た後からです。

家を出て行った喜旺は、普段からつるんでいた孫有や金樵と一緒に、荷馬車をひいて街に荷運びの仕事に行ってしまったのですが、これ以降喜旺の靴は破れっぱなしになってしまうのです。もちろんそれ以前のコマでは、喜旺の靴は破れていません。

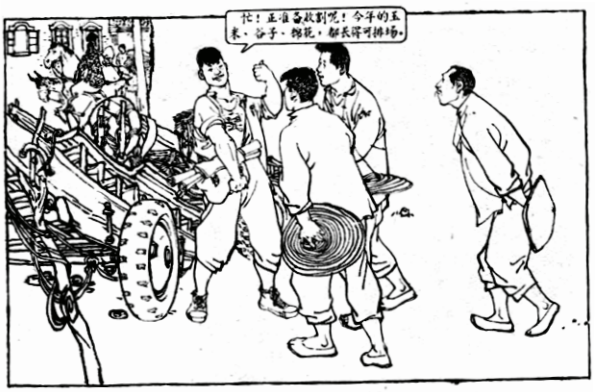
あるいはこんなコマもあります。【図 24】

これは、公社の「労働点数記録係」に任命された喜旺が、初仕事を終えて家に戻ってきた場面なのですが、喜旺は靴を脱ぎ足を広げてくつろいでいます。「点数記録係」って足が疲れるものかしらん……？　と少し違和感を覚えるのは私だけでしょうか。後の喜旺の足元の描写を見ていくに、このコマにもなにやら意図があるのではないかと思います。



（52）双双知道他这个爱表功的脾气，任他哼呀哈呀的扯。她倒了杯开水，抿着嘴微笑着，端到喜旺跟前："怎么啦！不舒坦？"

【図 24】



（156）二春是上城里来买工折，捎带点零碎东西的。喜旺又问："家里忙吧？咱们队里的庄稼怎么样？"

【図 25】

足元と言えば、『李双双』の中には次のような描写もあります。【図 25】をご覧ください。

一人だけ周りと違う靴を履いている人物がいるのに気がついたでしょうか？　シンプルな布靴の中に、洒落た（？）紐靴が混じっています。

紐靴を履いた彼は、名前を二春という若者です。二春は、映画では桂英と恋愛関係にあり、旧社会の慣習の下で恋愛抜きに結婚した双双と喜旺とは対照的な存在として、重要な役割を果たしている人物です。連環画では桂英と二春の恋愛関係は描かれていないのですが、やはり物語の初めから終わりまで双双ら夫

妻の近くにいる、主要人物であります。二春が紐靴を履いているのは映画からある描写ではありますが、画面の明晰な連環画ではより一層特徴的に見える気もします。

なお、よくよく見てみると紐靴を履いているのは二春以外にもあと二人いるようです。

一人はトラック運転手の小王【図26】、もう一人は喜旺が街へ行く道すがらで会ったスイカ売り【図27】です。

そしてこの小王の方なのですが、彼はなんと桂英の両親が勝手に決めた、桂英の花婿候補だったのです。同じ紐靴でも、運動靴風の二春の紐靴と比べて、小王の靴はオシャレな革靴風なのでしょうか……？

ちなみに小王ですが、彼は桂英の家を訪れる途中に双双と会い、この婚約の話が桂英の知らないところで勝手に進められたものであり、桂英は望んでいないものなのだと知ると、婚約を辞退し桂英にも会わずに帰っていってしまいます。小王もやはり若い感性の持ち主であり、なかなか真面目な青年のようであります。



(132) 双双问："你是来相亲的吧？你认识桂英吗？"小王红着脸说："认识，可没有见过面，反正一见面就认识。我这个人哪，也很开通，你们副队长金樵和我挺熟的。"

【図 26】



(151) 其中一个听到他们进城去，便问道："你们上城里去啊？巧极了，我们买的这西瓜，正愁没法运呢！给我们捎到城里去吧？"

【図 27】



(47) 双双猛地朝他一指："今年春天！你敢说没有？放着光荣不光荣。我就见不得这号牵着不走，打着倒退的货。"说得喜旺闭口无言。

【図 28】
基本的には、皆布靴を履いている

★李双双、その後

ところでこの大ヒット作『李双双』ですが、その後の彼女たちはどのような未来を向かえたのでしょうか。

60 年代前半に一大ブームを巻き起こした『李双双』も、66 年から始まった文化大革命のころには、批判の対象となってしまったのでした。批判の内容は主に“中間人物”である喜旺に向いていたようですが、このために『李双双』はしばらくの間表舞台から姿を消すこととなったのです。

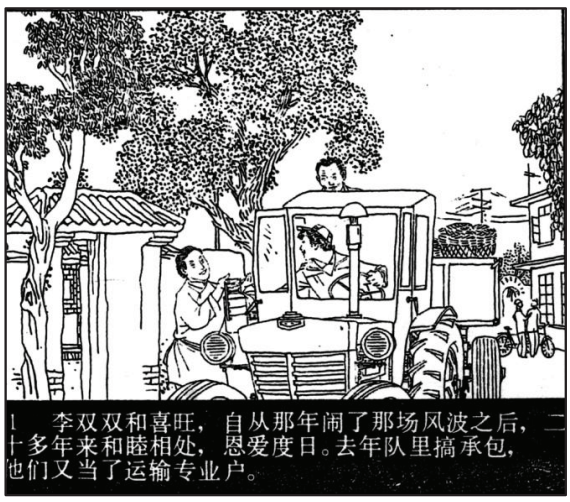
70 年代の末ごろから、再び『李双双』を再評価する動きが出てきましたが、そのころには中国の社会も以前とはまた違っていました。

「新しかった」女性李双双は、さらに新しくなった中国を、どのように迎えたのでしょうか。

そう、実は『李双双』には続編（？）があったのです！

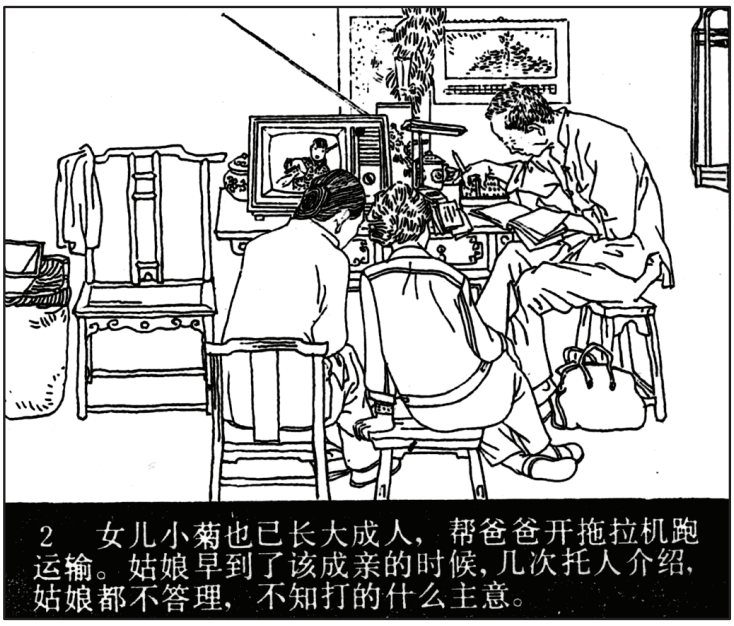
『農民だって革靴を履かなきゃ』と題されたそのお話は、阿福編、賀友直絵で、1985 年の『連環画報』7 月号に掲載されました。全 14 コマの短いお話ですので、まずはどうぞご一読ください。





1　李双双と喜旺は、あの年の人騒がせから二十年余り、お互いに仲睦まじく暮らしておりました。二人は去年、隊の仕事を引き受けて、また専ら運送の仕事に当たっています。

２　娘の小菊もすっかり大人になりまして、お父さんの仕事を手伝ってトラクターを運転し、運輸業に勤しんでいます。娘ももうすぐ結婚のお年頃。何度か人におねがいして相手を紹介してもらったのですが、娘はまったく応えません。彼女はどういうつもりなんでしょう。





３　そんなある日、一人の青年が小菊と家までやってきました。なんと彼女は「自由」を唱えて、自分で相手を探したのです。

「母さん、この人は小王よ、車の運転手なの」

４　何ヶ月かが過ぎ、両人も行き来を繰り返してすっかり打ち解けたころ、これは事も成ったなと、双双は娘に言いつけました。

「小菊や､古くからの習慣なんだから、あんた小王に靴を贈んなきゃだめよ、そういう決まりなんだから。昔はあたしもあんたのお父さんに、手ずから作った靴をあげたもんよ」

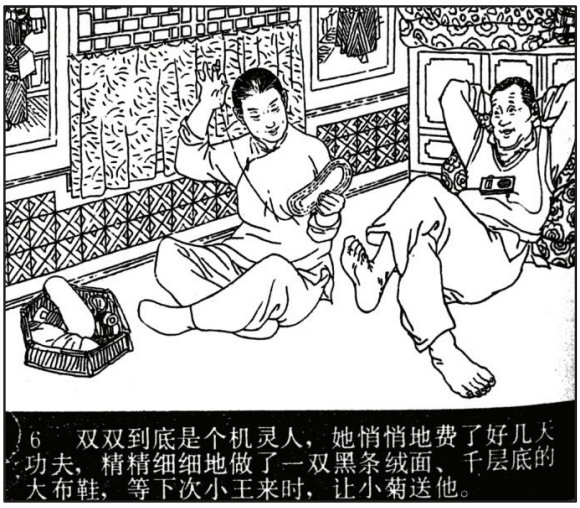




５　これは実に小菊を困らせました。

「靴は贈んなきゃだけど、あたし作れんもの！」
「そうだねぇ、子供のころから甘やかしたから……」

６　双双は何と言っても利口な人ですから、何日かかけてせっせと念入りに千層底の立派な黒い布靴を作り上げまして、次に小王が来た時に、小菊に贈らせることにしました。





7　这天，小王又来了。双双把小菊叫进屋里，拿出鞋来。

７　さてある日、小王がまたやってきました。双双は小菊を部屋の中に呼んで、靴を取り出しました。

「ほら、これを彼に贈んなさい」
「もう靴をあげたわよ！」

８　双双は、はて何のことやら。

「やっとできたとこなのよ。あんた何を贈ったのさ」
「母さん、ほら。彼、履いてるわよ！」



8　双双很纳闷。



9　双双揭开门帘一看，只见小王脚穿一双乌黑锃亮、油光滴水的三接头皮鞋。

９　双双がのれんをめくって一目見ますと、小王は足に真っ黒テカテカの革靴を履いているではありませんか。

「母さん、あの人は父さんみたいに荷車を牽いたりしないのよ、布靴なんか履かないわ」

10　双双は考えました。そうだわねぇ！　洋服を着るのに布靴と言うのも不釣り合いだわ。こういう古い習慣も変えていかなきゃいけないわね。この布靴はあの人に履いてもらえばいいわ。



10　双双一想：倒也是！穿着西装配布鞋也不相称，看来这个老习惯也得改改了。这双布鞋只有给老伴儿穿了。



11　正想着，只见喜旺手捧一个硬纸盒，兴冲冲地进屋来。

11　ちょうどそう思っていたところ、喜旺が手に箱を抱えてウキウキと部屋に入ってきました。

「よう、今日からわしら田舎っぺも、洋風でいくことにしようかのう！」

12　箱を開けて取り出したのは、真っ黒テカテカの革靴です。喜旺はすぐにそれを足に合わせてみました。

「あんたったら、革靴を履く気なのかい？」



12　只见他打开纸盒，取出一双乌黑锃亮、油光滴水的三接头皮鞋，就往脚上套。



13 ……

「どうだい。農民は布靴だけ履いてりゃいいなんて誰が言ったかね。明日はおめえにハイヒールの靴を買ってやるからな。」

14　形勢が発展するにつれ、多くの古ぼけた価値観や風俗習慣は打ち破られ、変化するものです。変わるべきであり、変わって良くなるのです！　目の前のこのような変化はとても微かなもので、普遍的ではないけれども、やっぱり繁栄富強の日がまもなくやってくることを意味しているのです。



……。

いかがでしょう。

運輸業を営む双双と喜旺。「自由恋愛」の恋人で運転手の小王。布靴を作る双双。その一方で嬉しそうに革靴を買ってくる喜旺など、ざっと見ただけでも色々とツッコミどころの多い作品ではなかったでしょうか。

机には電気スタンドやテレビが置かれ、室内はずいぶんと賑やかで豊かになりました。喜旺が裸足でくつろぐのは相変わらずのようですが、チョッキ姿にイヤホンでラジオをお楽しみとは、なかなか垢ぬけたご様子？　小菊のボーイフレンドの小王なんかも、腕時計をつけています。

そんな中、一人昔ながらの服を着て、せっせと靴を手作りする双双の、なんとも時代遅れなこと。双双が思い浮かべる、新しい靴を履いた喜旺の姿も、二十年前とまるきり一緒ではありませんか。

かつては古い考えを打倒する新しい女性として人々を夢中にさせた双双が、今度は一番頭の古い人間として描かれるとは、果たしてユーモアなのか皮肉なのか。いずれにしても、双双の口から「古い習慣なんだから……」なんて台詞を聞くことになろうとは、当時の双双を知る人なら誰が予想しましょうか。周りを見てすぐに考えを改める明晰さは、さすがと言ったところでしょうが……。

さて、さらに月日は流れて現在 2012 年、双双もすっかり八十近いおばあちゃんになってしまいました。彼女は今頃どうしているのでしょうか。またいずれ、どこかで会える日があれば……。



【図 29】

賀友直画『人物集粋長巻』一部（2002 年）